

この度は、「薬ゼミの出る本改訂版」をご購入いただき、誠に有難うございます。
 本書について、以下のとおり補足及び訂正させていただきます。
 ご迷惑をお掛け致しまして申し訳ございませんが、何卒宜しくお願い申し上げます。

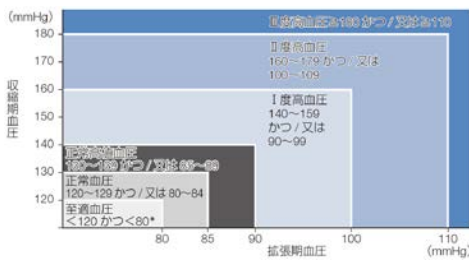
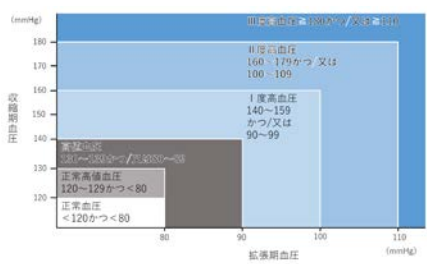
薬学ゼミナール編集 薬ゼミの出る本改訂版 補足及び訂正一覧表

	訂正前	訂正後
P33 生物 3 行目	……細胞から分泌されるグルカゴンにより、グリコーゲン合成が促進される。	……細胞から分泌されるグルカゴンにより、グリコーゲン合成が抑制される。
P35 薬剤 4 行目	持効型のインスリン製剤は、 <u>プロタミンや亜鉛の添加により、懸濁液としたものである。溶解性を低下させることにより、注射部位で懸濁粒子が徐々に溶解し、二量体を経て単量体が毛細血管に吸収されることで速効型に比べ持続的な作用が発現する。</u>	持効型のインスリン製剤は、注射部位で <u>結晶を形成したり、アルブミンと複合体を形成することなどにより、持続的な作用が発現する。</u>
P35 図	<p>■インスリンアナログの吸収</p> <p>超速効型 (インスリンリスプロ、インスリンアスパルト) 速効型 (ヒトインスリン) 持効型 (インスリングルガリン) 持効型 (インスリンデグデック)</p> <p>結晶 プロタミン 徐々に溶解 複合体 アルブミン 複合体</p> <p>毛細血管 六量体 二量体 単量体 ←アルブミン</p>	<p>■インスリンアナログの吸収</p> <p>超速効型 (インスリンリスプロ、インスリンアスパルト) 速効型 (ヒトインスリン) 持効型 (インスリングルガリン) 持効型 (インスリンデグデック)</p> <p>結晶 徐々に溶解 複合体 アルブミン 複合体</p> <p>毛細血管 六量体 二量体 単量体 ←アルブミン</p>
P73 問3 解説 4 行目	……に伴い、 <u>大腸がんや乳がんの死亡率が増加傾向にある。</u>	……に伴い、 <u>乳がんの死亡率が増加傾向にある。</u>
P78 表 上 タイトル	<u>輸血後 GVHD (移植片対宿主病) とシクロスポリンについて</u>	GVHD (移植片対宿主病) とシクロスポリンについて
P78 表 上 1 行目	原因	<u>輸血後 GVHD の原因</u>
P78 表 上 2 行目	症状	<u>輸血後 GVHD の症状</u>
P78 表 上 4 行目	<p>予防対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 輸血用血液製剤には、あらかじめ放射線照射 (15~50 Gy) をする。新鮮凍結人血漿を除くすべての輸血用血液製剤に放射線照射を行う必要がある。照射した血液製剤は、できるだけ早く使用する 血縁者の輸血を避ける 免疫能低下を認める患者は、十分回復してから手術を行う できるだけ自己血輸血を行う 免疫抑制薬 (メトトレキサート、シクロスポリン、タクロリムス水和物など) の事前投与、ドナーの T リンパ球に対する放射線照射を行う 	<p>輸血後 GVHD の予防対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 輸血用血液製剤には、あらかじめ放射線照射 (15~50 Gy) をする。新鮮凍結人血漿を除くすべての輸血用血液製剤に放射線照射を行う必要がある。照射した血液製剤は、できるだけ早く使用する 血縁者の輸血を避ける 免疫能低下を認める患者は、十分回復してから手術を行う できるだけ自己血輸血を行う <p>造血幹細胞移植に伴う GVHD の予防対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 免疫抑制薬 (メトトレキサート、シクロスポリン、タクロリムス水和物など) の事前投与を行う
P141 用法・用量 3 行目	……成人 1 回 6~12 mg を 6 時間間隔で 4 回筋肉内注射する。なお、……	……成人 1 回 <u>10 mg を経口投与もしくは 6~12mg を筋肉注射する (6 時間間隔、4 回)。</u> なお、……
P141 用法・用量 6 行目	<u>5 mg 錠</u>	<u>注</u>
P141 用法・用量 12 行目	……2~6 回静脈内又は筋肉内注射する。	……2~6 回 <u>経口投与もしくは静脈内又は筋肉内注射する。</u>

下表は、2019年4月のリスク区分の変更に伴う追補となります。

	訂正前	訂正後
P22 法規 3行目	—	注)2019年4月15日よりイコサペント酸エチル(エパデール T)は、第一類医薬品に移行した。
P24 問2 解説 5行目	—	注)2019年4月15日よりイコサペント酸エチル(エパデール T)は、第一類医薬品に移行した。

下表は、2019年4月の高血圧治療ガイドライン 2019(日本高血圧学会)発刊に伴う追補となります。

	訂正前	訂正後																											
P4 図 成人における血圧値の分類																													
P5 表 降圧目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>患者</th> <th>診察室血圧</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>若年、中年、前期高齢者患者(65~74歳)</td> <td>140/90 mmHg未満</td> </tr> <tr> <td>後期高齢者患者(75歳以上)</td> <td>150/90 mmHg未満(忍容性があれば140/90 mmHg未満)</td> </tr> <tr> <td>糖尿病患者</td> <td>130/80 mmHg未満</td> </tr> <tr> <td>CKD患者(タンパク尿陽性)</td> <td>130/80 mmHg未満</td> </tr> <tr> <td>脳血管障害患者、冠動脈疾患患者</td> <td>140/90 mmHg未満</td> </tr> </tbody> </table>	患者	診察室血圧	若年、中年、前期高齢者患者(65~74歳)	140/90 mmHg未満	後期高齢者患者(75歳以上)	150/90 mmHg未満(忍容性があれば140/90 mmHg未満)	糖尿病患者	130/80 mmHg未満	CKD患者(タンパク尿陽性)	130/80 mmHg未満	脳血管障害患者、冠動脈疾患患者	140/90 mmHg未満	<table border="1"> <thead> <tr> <th>患者</th> <th>診察室血圧</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>75歳未満の成人</td> <td>130/80 mmHg未満</td> </tr> <tr> <td>75歳以上の高齢者</td> <td>140/90 mmHg未満</td> </tr> <tr> <td>脳血管障害患者</td> <td>再発脳動脈障害や脳主幹動脈障害なし 脳動脈動脈硬化や脳主幹動脈障害あり又は未評価</td> <td>130/80 mmHg未満 140/90 mmHg未満</td> </tr> <tr> <td>CKD患者</td> <td>タンパク尿陽性 タンパク尿陰性</td> <td>130/80 mmHg未満 140/90 mmHg未満</td> </tr> <tr> <td>冠動脈疾患患者、糖尿病患者、抗血栓薬使用中</td> <td></td> <td>130/80 mmHg未満</td> </tr> </tbody> </table>	患者	診察室血圧	75歳未満の成人	130/80 mmHg未満	75歳以上の高齢者	140/90 mmHg未満	脳血管障害患者	再発脳動脈障害や脳主幹動脈障害なし 脳動脈動脈硬化や脳主幹動脈障害あり又は未評価	130/80 mmHg未満 140/90 mmHg未満	CKD患者	タンパク尿陽性 タンパク尿陰性	130/80 mmHg未満 140/90 mmHg未満	冠動脈疾患患者、糖尿病患者、抗血栓薬使用中		130/80 mmHg未満
患者	診察室血圧																												
若年、中年、前期高齢者患者(65~74歳)	140/90 mmHg未満																												
後期高齢者患者(75歳以上)	150/90 mmHg未満(忍容性があれば140/90 mmHg未満)																												
糖尿病患者	130/80 mmHg未満																												
CKD患者(タンパク尿陽性)	130/80 mmHg未満																												
脳血管障害患者、冠動脈疾患患者	140/90 mmHg未満																												
患者	診察室血圧																												
75歳未満の成人	130/80 mmHg未満																												
75歳以上の高齢者	140/90 mmHg未満																												
脳血管障害患者	再発脳動脈障害や脳主幹動脈障害なし 脳動脈動脈硬化や脳主幹動脈障害あり又は未評価	130/80 mmHg未満 140/90 mmHg未満																											
CKD患者	タンパク尿陽性 タンパク尿陰性	130/80 mmHg未満 140/90 mmHg未満																											
冠動脈疾患患者、糖尿病患者、抗血栓薬使用中		130/80 mmHg未満																											